

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

整数、小数、分数の数のしくみや四則計算については、単元終了後も定期的に繰り返し行うことで、力がついてきたと言える。しかし、どの学年においても個人差が大きく、低学年からの積み上げがないとなかなか力がつかない。学んだことを生活に結び付ける単元では、どの学年も積極的に取り組む姿が見られた。また、図形の単元や問題場면을捉えるときにデジタル教科書やICTを使って行くと児童の理解が深まった。

(2) 課題

- ・整数、小数、分数の数のしくみや四則計算の力をつけるために、低学年から数的感覚を身に付ける体験や、答えを予測して計算をしたり、見直しの習慣をつけていったりすることが必要である。
- ・三角定規やコンパス、分度器を使いこなせない児童が一定数いるので、習熟が必要である。
- ・文章問題において場面をとらえることが難しい。そのため、大切な言葉に印を付けたり、線分図やテープ図、数直線を定着させたりする指導が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	校内平均正答率は目標値と同程度であった。		
第5学年	校内平均正答率は目標値を上回っている。	校内平均正答率は目標値を上回っている。 (第4学年時)	
第6学年	校内平均正答率は目標値と同程度であった。	校内平均正答率は目標値と同程度であった。 (第5学年時)	校内平均正答率は目標値と同程度であった。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 4年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、目標値を上回っていた。	校内平均正答率は、目標値を上回っていた。	校内平均正答率は、目標値を上回っていた。

② 5年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、目標値を上回っていたが、いろいろな形の作図については目標値を下回っていた。	校内平均正答率は、目標値を上回っていたが、計算のきまりについては目標値を下回っていた。	校内平均正答率は、目標値を上回っていた。

③ 6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、目標値を上回っていた。	校内平均正答率は、目標値を上回っていた。	校内平均正答率は、目標値を上回っていた。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○基礎・基本の定着を図るため、繰り上がり・繰り下がり計算やかけ算を繰り返し行い、基礎計算力の向上を図る。 ○長さの単位や水のかさの単位を正しく使えるように、実物を使った、実際に測ってみたりする活動を取り入れる。 ○日常的に時計で時刻や時間を確認することで、読み方の定着を図る。	○文章題での立式の意味を理解できるように、教科書の挿絵を使ってどんな場面かを話し合ったり、ノートに説明や図をかかせたりする。 ○デジタル教科書のアニメーションを活用し、問題場面を捉えやすくする。 ○文章問題の文末に注目し、なぜその式になるのか説明させることを1年生から継続して行う。大事な言葉には線を引かせたり印を付けさせたりする。	○学習したことを、生活の場面で活用できるように、実際に使われている物を見せたり調べさせたりして、学習したことを実感させる。他教科の中でも学習したことを活用する場面を設ける。 ○オクリンク等を活用し、生活の中で学習したことを写真に撮るなどして共有する。 ○ノートに線を引く時は、ものさしや定規を使うなど、日常的に道具を使う場面を設ける。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○基礎・基本の定着を図るため、繰り上がり、繰り下がり計算やかけ算・わり算の筆算の練習を繰り返し行い、基礎計算力の向上を目指す。また、概数の概念を用いた答えの求め方も繰り返し練習させて定着を図る。 ○分度器を正しく使って角度を測ることを繰り返し練習させて習熟を図る。	○文章題での立式の意味をきちんと理解できるように、問題を読んだ後にテープ図や線分図にして説明させるようにする。 ○実際の場面の映像や具体物等を活用し、問題場面を正しく捉えさせる工夫をする。	○コンパスを使って模様を描く機会などを積極的に作り、児童が主体的に道具に慣れ、習熟を図れるようにする。 ○単元末に学習を振り返る活動を行い、できるようになったことを価値づけたり、今後の生活や学習に活用できるように発問を工夫したりする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○小数や分数の四則計算の定着を図るために、繰り返し既習事項の復習を行う。その際に、正しくノートやドリルに筆算や途中式を書くようにさせる。また計算の前に答えの見当をつけたり、見直しで位が正しいか考えたりすることを意識付け、計算のミスが減るように工夫させる。 ○基準量や比較量が何かを考えさせる。その関係を数直線や図で表す方法を全体で確認してから求めるようにさせる。 ○分度器やコンパスの使い方を丁寧に確認してから作図させる。	○文章題では、必要な情報がわかるように文を区切って整理することを通して、立式を正しくできるようにする。 ○式の意味を確認し、どうしてこのように立式できるのか説明する機会を作る。必要に応じて ICT を活用する。	○分度器やコンパス・定規を使って、正しく三角形や四角形を描く機会を積極的に作り、習熟を図れるようにする。 ○1つの方法だけでなく、様々な解き方を考えさせ、それを記述して相手に分かるように説明する場面を意図的に作っていく。その際にはオクリンクなどの ICT も活用していく。